

銚子ジオパーク市民の会 ニュース

屏風ヶ浦(銚子市)

第123号

2023年6月8日発行

発行責任者 工藤 忠男

銚子ジオパーク市民の会

URL: <https://choshigeopark.com>

市民の会総会並びに記念講演会開催

小玉 健次郎

5月27日(土) 14時から銚子ジオパーク・芸術センター(旧八中)二階で、2023年度市民の会総会が開催されました。工藤忠男会長の挨拶に続き、来賓の推進協議会会長越川信一市長から、市民の会の活動に敬意を表するとともに、本年は「2」全国大会が関東ブロックで開催されることになり、主会場が銚子ジオパークとジオパーク秩父になったので、皆で頑張っていました。出席者数について田中豊副事務局長から報告を受けた後、

2023年度の活動報告を小玉副

会長、収支決算報告を茂木洋佑事務局長、監査報告を保立得造監査がし、会場出席者の拍手多数で承認されました。

続いて、2023年度の活動計

画(案)を宮内敏副会長が、収支予算(案)を茂木事務局長が説明し、出席者の賛成挙手多数で承認されました。活動計画(案)では、千葉県環境財団からの助成金として、令和5年度県民の環境活動支援事業

助成交付(助成金7万円)を受け取るようになったので、海岸清掃などで使用する用具等の購入費用などに活用するとの説明がありました。

講演中の酒井先生

最後に、2023年度役員の選任(案)を工藤会長が説明し、挙手による賛成多数で承認されたあと、2023年度の理事会構成員が一人ずつ紹介され、総会は終了しました。

総会終了後、15:30から、推進協議会との共催による総会

記念講演会 (Zoomによる同時配信)が開催され、宇都

宮大学酒井豊三郎名誉教授に

による「屏風ヶ浦の地層を追って」というタイトルで、犬吠層

群「名洗層(改訂)、春日層小浜層、横根層、倉橋層」を

命名した経緯についてのお

話があり、屏風ヶ浦は「東洋のドーバー」ではなく「世界に誇れる屏風ヶ浦」であるという説明に、深い感銘と勇気をいただきました。

〇 〇

石嶋 博行

五月十五日に千葉科学大学看護学科一年の地域フィールドワーク実習(*1)で屏風ヶ浦ジオサイトのガイドを行いました。

新入生40名が3グループに分かれ、ガイド6人体制で、屏風ヶ浦の地層を70分かけて、共に学びました。

安藤さんと分担したCグループは、女子9名と男子1名の計10名。出身地は、千葉と茨城がほとんどで、山形県が

の計10名。出身地は、千葉と茨城がほとんどで、山形県が

千葉科学大学「地域フィールドワーク」

発問を紹介します。

問一: 伊能忠敬の最初の測量の目的は何だったのか。

問二: 地層はどんな物質がどんな環境で堆積したのか。

問三: 波食された「赤はげ」の土砂は何処へいったのか。

問四: 小畑川排水路の水流はなぜ臭うのか。

問五: 謎の横穴は何のために、いつ掘られたか。そして、出入りはどうしたのか。

のか。

フィールドワークは、

「歩く・観る・考える」ことが大切だと改めて感じ

春のジオ俳句

銚子港利根に抱かれて鳥帰る

保立得造

朧月海と対比のジオの森

大吉

ジオの森さえずり楽し

眼を凝らし

石嶋博行



ガイドを受ける看護学科の皆さん